

平成28年度県立病院事業経営評価委員会議事録

1 日時 平成28年10月7日（金）10:00～11:45

2 場所 杉妻会館3階 百合の間

3 議題

- (1) 県立病院改革プランの平成27年度取組状況の二次評価について
- (2) 新たな県立病院改革プラン（仮称）の策定について

<配布資料>

県立病院事業経営評価委員会委員名簿

県立病院事業経営評価委員会設置要綱

資料1 「県立病院改革プランの平成27年度取組状況」

〈参考1〉 良質な医療サービスの提供

資料2 「新たな県立病院改革プランの策定について」

資料3 「福島県復興計画（第3次）〔概要版〕」

資料4 「福島県人口ビジョン〔概要版〕」

資料5 「ふくしま創生総合戦略〔概要版〕」

資料6 「双葉郡等避難地域の医療等提供体制検討会中間報告（概要）」

資料7 「ふたば医療センター（仮称）の整備について」

資料8 「ふたば復興診療所ふたばリカーレ患者報告」

資料9 「福島県地域医療構想（素案）の概要」

資料10 「健康長寿ふくしま推進事業」

資料11 「各県立病院への診療圏町村等からの要望について」

○委員長：本日は、平成27年度の取組状況の二次評価と、新たな県立病院改革プランの策定について審議していく予定です。それではまず、平成27年度の取組状況について、事務局から説明をお願いします。

（事務局より説明）※資料1に基づき説明

○委員長：それでは、皆様からご意見をお聞きしたいと思います。第二次改革プランの平成27年度の取組状況についてはいかがでしょうか。

○委員：南会津病院は救急を断らないということで、中小規模の病院ながらも一生懸命やっておられるという印象を持ちました。また、診療所の支援につきましても、県立医科大学及び県からの玉突きの支援、いわゆる福島方式ということで支援を実施しておりますが、活発にやっていると

ます。南会津病院・宮下病院とも、臨床研修病院の協力病院として、受入を積極的に行っておりますので、非常に良くやっておられるなどの印象を持ちました。

矢吹病院につきましては、児童思春期外来を立ち上げて力をいれているとのことで、特徴のある施策をやっておられるという印象を持ちました。

資料の中で質問があるのですが、南会津病院の逆紹介率が昨年と比べて半分以下に減っているのですが、平成26年度が何かの理由で高かったのでしょうか。

○委員長：概ねお褒めの言葉でしたけれども、最後の質問について答えられますか。

○事務局：詳細な分析は今の所行っておりませんが、毎年度医師の異動等がございまして、その影響もあるかとは思いますが。

○委員長：医師が変わっても病院の質は変わりませんから、改善策としては、新しく変わった医師を教育するということでしょうか。

○委員：廃院したような施設はなかったのでしょうか。

○事務局：開業医の先生がお辞めになったというような状況はございません。

○委員：矢吹病院についてなのですが、一生懸命皆さんやっております、職員の皆さんもいきいきと仕事をしている姿が浮かぶような感じがいたしました。職員の資質向上の項目で、昨年度よりも数として向上しておりますが、人材の育成やパスの利用が多いとか、職員のやる気を起こす取組について、何かありましたら教えて下さい。

○委員長：矢吹病院で人材の育成と確保について、資格取得を病院をあげて支援しているとか、その体制について聞きたいとのことですが。

○事務局：矢吹病院は、入院から外来、地域へということで、変換の時期であります。資格取得については、1人感染の関係の認定看護師が追加になっております。職員の意識改革については、職員提案について昨年改善を行いました。クリティカルパスの関係では、今年の3月から精神科急性期治療病棟入院料の算定を開始した関係で、クリティカルパスを一部導入したところがあります。ただ、入院の減が大きい関係でなかなか収益の改善までは至っていない段階であります。

○委員長：資格取得のサポートや意識改革については第一次のときから委員会で議論がありまして、取り組んでいただいております。

他に意見ございますでしょうか。

○委員：現在全国的に病床数を減らす方向であり、職員数についても考える必要があると思いますが、今後病院の職員の数についても明記したほうがいいのではないかと思います。

○委員長：職員が増えているのか減っているのか数字について答えられますか。

- 事務局：基本的には職員数はだいたい同じであります。職員数を記載することは可能ですので、今後はそのようにしたいと思います。
- 委員：病床数は減らしているのに、職員数は減らしていないということですね。
- 事務局：矢吹病院については運用病床を199床から149床に減らしましたが、急性期の医療に取り組むということで、そこに職員を手厚く配置しており、職員数はほぼ同じになっております。
- 委員：非常に見やすい資料に出来あがっていると思います。特に矢吹病院の場合ですと、アウトリーチの新規実施、児童思春期外来の患者数の増加、そういう中で人員をこれから手厚くしていく必要性もあるのではないかと印象を受けました。先ほど、職員数の話がありましたけれども、単純にコストのために削減するだけじゃなく、診療の方法に応じては、逆に増加しなければいけない部分もあるのではないかと感じました。
- 27年度の取組状況については、目標値もかなりクリアしており、十分な成果が出てきたと思います。ただし、表現方法を検討していただきたい部分があるのですが、例えば未収金の発生防止などは回収率の数字の部分であり、現金の回収は非常に難しい現場ですので、数字がしっかり出て、定量評価が5ならば、定性評価も5でよいのではないかと。ただし、元々の目標値が甘かったのであれば、今後の反省材料にしなければならない。この定性評価と定量評価の連動性について、再評価していただいて、次回以降新たな指標、基準値決め自体を御検討いただきたいと思います。全体としては、非常に満足のいく方に進んでいったのではないかと思います。
- 事務局：次回以降は定量評価と定性評価を連動させた形で評価していきたいと思います。
- 委員：周りの環境の変化についても判定の中に入っていないと、数字の面だけで判断すると、また評価も違ってくるのかなと思います。
- 南会津病院について、患者数は減っておりますけれども、毎年400～500人ずつ地域の人口が減っております。また、通院される方々の公共交通の問題もあると思います。そういう中でこの数字というのは、かなりいい数字ではないかと思います。
- それからもうひとつ、朝8時頃受付をして最後に診てもらうのが午後5時頃になってしまうとなると、どうしてもやっぱり患者さんが敬遠されてしまうというような現状も科目によってはあります。このようなことも、なかなか患者さんが増えないことの原因かなと思っております。そのような現実があるということをご認識いただきたいと思います。
- 委員長：良くやっているとお褒めの言葉でしたが、課題としては交通手段、それから診療科目の問題。これは診療日を増やすとかそういうことでしょう

か。

- 委員：それから、救急医療に関しては、麻酔科の先生がいらっしゃらないと、急患がこられても手術できないということがございますので、紹介率等にも影響があるかと思えます。
- 事務局：医師の確保については今後とも努力をしていきたいと考えております。
- 委員長：他はよろしいでしょうか。
平成27年度の取組状況についてですが、概ね妥当ということではよろしいでしょうか。それでは反対意見もございませんので、概ね妥当ということで。次に、新たな県立病院改革プラン（仮称）の策定についてであります。事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）※資料2～11に基づき説明

- 委員長：資料11については、いつ聞いたものですか。ヒアリングの時期は。
- 事務局：今年の8月、9月です。
- 委員長：直近ですね。資料11で概ね網羅されておりますけれども、これ以外にございますか。
- 委員：資料9の構想区域におきまして、「会津・南会津」となっておりますけれども、特に南会津地方は、雪の季節非常に厳しい状況になります。会津若松の中核病院に行くのに、車で2時間以上かかるような時もございます。へりの活用といいましても、雨が降ってはダメ、霧があってはダメ、雪が降ってはダメ、となりますと、やっぱり陸上に行くしかないということもございますので、こういうことも考慮した上で、医療構想の中で「会津・南会津」と一括されておりますが、よく吟味された上での計画をお願いしたいと思います。
- 委員長：会津と南会津は、名前は似ているけれども、実態は違うということですから。
- 事務局：地域医療構想は保健福祉部で作成している計画であり、地域医療構想では会津・南会津は一緒になる可能性が高いと思いますが、県立病院改革プランを作成する上では、今言われた地域の実情を考慮した上で計画を策定したいと考えています。
ただ、すべてを南会津病院で担うことはできませんので、役割分担はしていくことになるかとは思いますが、なるべく出来る部分を充実させていく、そういった観点を踏まえてプランを策定していきます。
- 委員：南会津地方、高齢化率40%を超えそうなんですね。既に超えている地域もありますけれども、そういう中で、地域の住民の方々が要望される診

療科目に変化も出てくるわけです。現在やっている診療科目の先生方も大事なのですが、そういうことを考慮した中での医療計画を策定していただけたらと思います。会津は全部、南会津も会津も一緒という考え方もありますけど、やはり地域の事情を考えれば、特に雪が降るといのは会津の特徴です。これを考慮無しでは行政も医療活動もできないと思いますので、そういうことを考慮した中での会津地域の計画というものが必要じゃないかと思います。

○事務局：県として生活圏は7つに分けておまして、そこで唯一の病院ですので、医師の都合であるとか、その時々ではそうならない時もありますが、目標としては、地域住民の方々の要望を踏まえて、医療を提供していきたいと考えております。

○委員長：要するに、保健福祉部が作った資料はこうなっているけど、病院局としては、唯一の病院として努力はしますということですね。ただし全部はできないので、やはり一番大事なのは、優先順位ですよ。できる範囲の優先順位、簡単な順位と難しいけどみんなが言う優先順位をどこですり合わせするかですよ。

○委員：ふたば医療センター（仮称）についてなんですけれども、双葉郡等避難地域の医療等提供体制検討会の中で、採算が合わなくても、しっかりとした二次救急医療をやってくださいと要望しておりましたが、それを全面的に受け止めていただきまして、大変ありがたく思っております。全く採算は合わない、かなり費用はかかるのではないかと思っております。

○委員長：資料2の病院の在り方の所で、中山間地域で安心して暮らせる医療の確保については、先ほど委員からお話がありました。震災からの復興については、要望したことを全て受け止めていただいたと。あとはそれが着実に実行されるかどうかを、チェックしていくということですね。

他に何かございますか。

○委員：先ほど会津の話ができましたけれども、宮下病院と南会津病院を取り巻く環境はかなり違うと思います。地域包括ケアということでいろいろしておりますが、地域包括ケアのシステムをつくる中のひとつである認知症の施策について、三島町・金山町の地域で宮下病院にお願いをしています。認知症初期集中支援チームを立ち上げる時に、医師の確保ということでお願いをするに当たり、異動等がありまして、なかなか一筋縄ではいかないという状況もあります。そのような中で、研修に行ってくださいの医師の方が出てきてくださったりしているのですが、県立病院という枠の中で、やはり開業医の先生とは違ったしがらみ等があるような感じもありますので、もう少し融通が利くような形になっていただけたら良いなと思います。一生懸命頑張っている医師の方、スタッフの方もいらっしゃいますので、病院として方針をしつ

かり決めていただければと思います。

- 事務局：認知症の対策の話も、中山間地域で安心して暮らせるという話と一つになると思いますが、実際、認知症の専門医と言われる、老年精神医学会で専門医になっている方は、福島県全体でも10～20名程度だと思います。そういった方を増やしていくということを、医大と連携して進めていくことが、一つ求められていると思います。それから、認知症に関しては、発生しからの対策も大切なのですが、やっぱり予防というところも重要ということで、医療と保健、福祉の一体化、予防からケアの所まで含めた対策を考えていかなければいけない、特にそういうことが強い領域であると思われるので、医療という観点だけでなく考えていくことが我々としても必要なのではないかと考えています。

先日、会津医療センターの心身医療科の職員の皆さん方が、柳津の西山地区で認知症の予防のための早期介入のモデルづくりといった意味で、地域の保健師さんたちと協力してこころの健康のための健診を実施しておりました。会津・南会津の場合には、特に医大の先生方との連携をしながら、事業を展開していくように、会津医療センター等の御協力を得ながらやっていく必要があるのではないかと、予防のための早期の健診ということも含めて、いろいろな機関の御協力を得ながら、やっていくことが必要なのではないかと考えております。

- 委員：先ほどお話しがりましたが、診療に時間がかかる、確かにそうなんですよ。昔と違うのは患者さんが老齢化して足腰が弱っています。そして話も多くなる。そのために、1人2分ずつかかったとしても、余計な時間が2分から5分かかったとして、30人診れば、1時間2時間簡単にとられている状況だと思います。ですから、病院局のほうで、そのような人の流れについても、流れの構造についても考えていただきたいと思います。

- 委員長：医者が一人ですと30分もいるのではなくて、受け止めるところを変えて、機能的に。

- 事務局：例えば外来受診される方に対して、まず看護師が先にお話を伺うとあるとか、他の職種の人が診療の後に日常生活の注意事項を相談するとか、そういった他職種の連携で外来がスムーズに流れていくように考えていく、そういったことも取り入れていく必要があるのではないかと考えました。

- 委員長：非常にいい試みだと思います。他によろしいでしょうか。

そろそろ時間も近づきましたけれども、本日は新たな県立病院改革プランの骨子及び考え方、スケジュールも見えてまいりました。今まで聞いたヒアリング以外に、今日、委員の方から頂いた様々な御意見がございまして、病院局のほうでそれを踏まえまして、先ほど説明のあったスケジュールで、今年度3月までの策定につなげていただければと思います。

それでは、最後の議題ですが、「その他」です。何かございますか。

○事務局：本日の議事録ですが、速やかに委員の皆様にお送りいたしまして、確認をお願いします。その後、病院局のホームページで公表させていただきますので、ご承知おき願います。

なお、次回の委員会の開催時期でございますが、来年の2月頃に開催したいと考えております。後日委員の皆様の日程を調整させていただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

○委員長：これもちまして本日の議事を終了させていただきます。

ご協力ありがとうございました。